

THE YMC

日本YMCA基本原則

私たちは日本のYMCAは、
イエス・キリストにおいて示された
愛と奉仕の生き方に学びつつ
世界のYMCAとのつながりのなかで、
次の使命を担います。

私たちは、
すべての人びとが生涯をとおして
全人的に成長することを願い、
すべてのいのちを
かけがえのないものとして守り育てます。

私たちは、
一人ひとりの人権を守り、
正義と公正を求め、
喜びを共にし痛みを分かちあう
社会をめざします。

私たちは、
アジア・太平洋地域の人びとへの
歴史的責任を認識しつつ、
世界の人びとと共に
平和の実現に努めます。

2014年5月1日発行 (毎月1日発行)
昭和22年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円(外税) (送料60円)
発行/公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7
TEL: 03-5367-6640 FAX: 03-5367-6641
URL: <http://www.ymcajapan.org/>
発行人/島田 茂 編集人/山根 一毅
印刷/あかつき印刷株式会社

人間を育てるスポーツ

京都サンガF.C. ホームタウンアカデミーダイレクター
池上 正



スポーツが人の成長に重要な役割を担っていることはご存知でしょうか。イビチャ・オシム元日本代表監督が次のようなことを言っています。「サッカーには人生で学ぶものがすべてある」。

アメリカでは、スポーツの現場で「アスリートカウンセラー」と呼ばれる専門家がアスリートを支えています。カウンセラーが必要となった背景の一つには、プロのバスケットボール選手が、皆若くして引退してしまうという状況がありました。

「いつまでもスポーツ選手でいたのでは、年齢が高くなって引退した際、社会で通用しない人間になってしまうのではないか」、そのような不安が選手達の引退を早めていた時期があったといえます。カウンセラーの役割は、チームで協力することの大切さや、厳しい練習に耐えて勝つための方法を考えること、そして観客とのコミュニケーションの取り方等、スポーツをするために欠かせないさまざまな事柄が、実は一般社会を生きる上でも大切な要件であることを選手達に伝え、彼・彼女達の不安を解消することです。カウンセラーの働きもあって、現在は選手生命も伸びているといえます。スポーツには本来、このような教育的意味もあるはずなのです。

しかし、今日のスポーツ指導の現場においては、「始めた以上はうまくならないといけない」「楽しただけではダメ」「大会に出て良い成績を残さない

と意味がない」といった、良い成績を残すことばかりに力が注がれているような印象を受けます。子ども達がスポーツを行う意義を考えたとき、うまくなることや良い成績を残すことだけが優先されていて良いはありません。その結果が、今日のスポーツ指導の現場において、人に優劣をつける、仲間とコミュニケーションが取れず一人ひとりが勝手な振る舞いをしている、という事態を生んでいるのです。

子ども達を指導する際、私はまず「人間を育てる」ということに重きを置いています。人は一人では生きてはいけません。力の貸し借りをし、協力し合うことで社会は成り立っています。このことを子ども達に伝えるために、スポーツは有効な手段であるといえます。特に、チームで行うスポーツにおいては、上手にコミュニケーションを図り、力を合わせる事ができない限り、チームプレーとして成立しません。スポーツのスキルや知識の習得だけではなく、社会的な存在である、人としての成長を同時に考えることは、YMCAの目指す全人教育そのものです。

今、スポーツ指導の現場において、体罰やいじめが問題となるような時代だからこそ、YMCAが歪みつつある少年スポーツの現状に一石を投じることを期待しています。

レポート

相手と向き合って
心を合わせていくこと。
(仏語:親和・共感的関係の意)

聖書の言葉を 道しるべに

合同メソジスト教会
派遣宣教師
ジョージ・W・
ギッシュ

「イエスの生き方を選ぶか、ヒトラーのような独裁者のやり方を選ぶか、選択は君達の自由です」

教会学校の高校生担当K先生のこの言葉を今でも忘れることができません。私のこれまでの人生は、聖書の教えを抜きにして考えることはできないからです。良心的兵役拒否を選んだ18歳、オーストリアの難民ワークキャンプに参加した19歳、そして海外宣教活動のため日本に派遣された21歳から現在に至るまで、自分の人生における選択はいつも聖書の言葉と共にありました。

さて、新約聖書のマルコによる福音書12章28節～34節に記されている「あらゆる掟のうちでどれが第一でしょうか」という、ある律法学者からの質問に対する答えとして、イエスは旧約聖書に書かれている次の二つの掟を挙げています。

第一の掟は、申命記6章4節の「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」、そし

て、第二の掟は、レビ記19章18節にある「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」というものです。

この二つの掟の要点は、「唯一の神を愛しなさい」と「隣人を自分自身のように愛しなさい」ということ。つまり、ここで確認された示された聖書の中心的な教えとは「愛すること」であると言えます。そして、ここでは「神を愛する、隣人を愛する、自分を愛する」という「三つの愛」が語られています。

この三つの愛は、どれも等しく大切にされるべきもので、互いに補い合う関係にあるものともいえます。しかし、「自分を愛すること」については、とすると日頃私達の意識があまり向けられていないかもしれません。ただ、自分を大切にすることができずに、どうして隣人を大切にすることができるでしょうか。

私達が人生において選択を迫られた時、その行く手を明るく照らしてくれる素晴らしいヒントが聖書には記されていることを、ぜひ知っていただきたいと思います。

たくさん話しながら
イルカリーダー



子ども達を認めてあげられる存在になる

元田 怜佳さん(イルカリーダー)―熊本YMCA

私の考えるリーダーの役割は、子ども達を認めてあげられるような存在になること。だからこそ、何かを伝えるばかりでなく、子ども達と同じ目線に立って、できることが増えていく喜びを共有したり、水泳以外のことについて話したり、一緒に笑ったりすることを大切にしています。

リーダーは、基本的に年間を通して活動に関わります。長いタイムスパンで同じ子ども達と関わることになるので、子ども達のさまざまな変化に

気付くことができます。「クロールの息継ぎができるようになった」「以前より体力がついて、長い距離を泳げるようになった」等は技術面での成長ですが、初めは口数が少なかった子どもが、次第に話し掛けてくれるようになることや、子ども達同士の関わりが深くなっていくことも、成長だと思っています。

以前、まだ水深の深い所が怖い子どもに「がんばれ!」と私が声を掛けると、同じグループの、その子より少し年上の子が「ビート板持っているから大丈夫。怖くないよ」と、一緒に応援してくれたことがありました。子ども達が人として成長していく様子を直接見ることができる場所、それが私にとってのYMCAの水泳クラスです。



水泳指導も少人数グループで。専門のインストラクターと熱心なリーダーの協力体制のもとに行われる

楽しもう!

バスケットボール

目標はどんなときも「楽しむこと」

篠原 元輝さん(ししゃもリーダー)―京都YMCA

ある大会の試合中に相手チームの選手がけがをしたことがあり、近くにいたうちのメンバーの一人が真っ先にその子に駆け寄り、体を支えたことがありました。思いやりのある

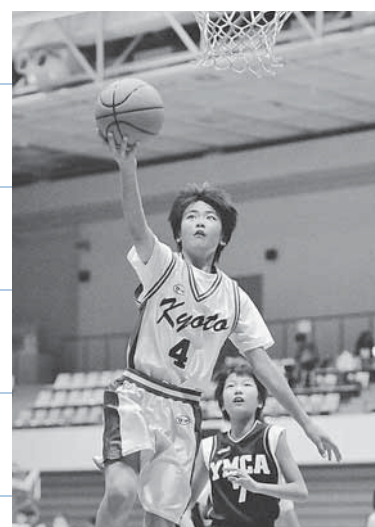


ししゃもリーダー

優しい人になったなど、子どもの成長を実感することができた思い出深いエピソードです。

バスケットボールは、一人の力だけではプレーすることができないスポーツです。だからこそ、日頃から子ども達同士で意見を言いやすい雰囲気や仲間と一緒に楽しく過ごせる環境づくりを意識しています。子ども達の技術が上達していく様子を見るのはうれしいことですが、例えば、チームの中で自信を持って自分の考えや意見を話せるようになった姿や、自分の考えで行動できるようになった姿、そして、人の気持ちや痛みを寄り添う姿に接した時にもやりがいを感じます。

目標としているのは、どんなときも「楽しむこと」。それは、遊んでいる時にだけ得られる感情ではなく、例えば厳しい練習にも頑張る「楽しさ」や、仲間と一緒に何かを達成する「楽しさ」もあると思います。そんな「楽しさ」を自分自身も味わいながら、子ども達にも伝えていきたいと思っています。



チームプレーでの仲間意識や協調性等、精神面での成長にも力を入れて取り組む

※リーダーとは……

YMCAでは、主にスポーツ活動や野外活動、グループ活動でボランティアとして子ども達を指導する青年達を「リーダー」と呼ぶ。リーダーの多くは学生であり、子ども達からは「リーダー名」(例:ジープリーダー)と呼ばれ親しまれている。

水泳

YMCAでは、スポーツを通じて一人ひとりの全人的な成長を促し、健やかな心と体を育むことを大切にしています

全国YMCAのスポーツプログラムの参加者数

水泳 参加者数:14,212人

実施YMCA: 北海道・盛岡・仙台・埼玉・東京・横浜・京都・奈良・大阪・神戸・姫路・広島・熊本(13YMCA)

サッカー 参加者数:5,980人

実施YMCA: 北海道・盛岡・仙台・前橋・とちぎ・茨城・東京・横浜・山梨・富山・名古屋・三重・滋賀・京都・奈良・大阪・和歌山・神戸・せとうち・広島・松山・北九州・福岡・長崎・熊本(24YMCA)

バスケットボール 参加者数:608人

実施YMCA: 東京・横浜・京都・奈良・大阪・神戸・せとうち・広島(8YMCA)

体操 参加者数:6,199人

実施YMCA: 北海道・盛岡・仙台・とちぎ・茨城・埼玉・東京・横浜・山梨・富山・名古屋・三重・滋賀・京都・奈良・大阪・和歌山・神戸・姫路・せとうち・広島・北九州・福岡・長崎・熊本・沖縄(25YMCA)

サッカー

夢に向かって努力する子どもと一緒に

向平 悟さん(ジープリーダー)―盛岡YMCA



小学3年生のころから盛岡YMCAでサッカーを続けてきた向平さん。3年越しで友人から誘われ、苦手意識を持ちながら始めたサッカーは、気付けば「人として大切なことを教えてくれる掛け替えのない存在になっていた」(右が中学3年生の向平さん)

活動の中で私が大切にしていること、それは夢や目標を持って取り組むということです。夢や目標がなければどこに向かって何をしなければいけないのかがはっきりしないばかりでなく、自分自身を評価することもできなくなってしまいます。夢や目標を堂々と持ち、それに向かって努力している子ども達と一緒に活動できることを私は喜びと感じます。

私が小学生のころ、サッカー協会の主催する大会へ盛岡YMCAの選手として参加し、岩手県ベスト16で負け、仲間と共に悔し涙を流しました。現在、私はリーダーとして子ども達と共に自分が小学生の時に参加していた大会と同じ大会に参加しています。リーダーとなって2年がたち、その大会はまだまだうれし泣きで終わったことはありません。でも、毎回の大会で大好きな子ども達と共に努力し、喜びや悲しみを分かち合いながら活動できていることが自分の励みとなり、次への原動力となっています。



右が向平さん

子ども達の成長が目に見えるようになるまでには時間がかかります。けれど、活動の中でうまくいかなかったときに悔しがったり、なかなかできなかったことができるようになって喜んでいたりする姿を見ると、その成功・失敗体験を通じてこれからどのような変化をしていくのか、いつもワクワクしながら見えています。

夢や目標を堂々と持って! ジープリーダー!

体操

リーダーは子どもと近い位置にいる

清水 朋美さん(マンゴーリーダー)―東京YMCA



小学生の体操クラスでは逆上がりや跳び箱、マット運動等を行う。一人ひとりに補助と掛け声でリーダーが寄り添う

グループを担当したばかりのころの私は、指導の知識や体操の知識がほとんどなく、子ども達もふざけてばかりで、なかなか楽しいとは感じられませんでした。けれど、プログラム・ディレクターや先輩リーダーに、一から丁寧に教えていただきながら、少しずつ補助や指導の幅を広げていくことができました。逆上がりができなかったある小学生の女の子に、自分が身に付けた指導法の中から、その子に合っていると思った指導を半年間続けた結果、完璧な逆上がりができるようになった時は、自分のことのようにうれしく感じられて、子ども達の成長に関わる楽しさを実感しました。

リーダーは「先生」とは違って、指導者でありながら、子どもと近い位置にいる存在です。だから

向き合うことで、きっと見つかる



マンゴーリーダー

からこそ、子どもとしっかり向き合い、体操のことだけでなく、いろいろな場面で一緒に考えることができるのだと思います。子ども達の中には、「できるようになりたい」と一生懸命努力する子もいますが、「できない」と思い込んで、その場から逃げ出そうとする子も少なくありません。そんな時は、できないことに対してだけでなく、いろいろな動き掛けをしながら、子ども達自身の興味を引き出すことを大切にしています。最近では、今どういう気持ちでこの子はこんな行動をしているのかなど考えることで、リーダーとしてその都度、取るべき対応が見えてくるようになりました。

NEWS

各地の動きをご紹介します。

●第19回学生YMCAインドスタディキャンプ



大好きな子ども達から“共に生きる”ことを学びました

蒸し暑くてもわっとして、どこか神秘的で魅力的な匂いのするインド。私はこのキャンプで、インドとインドの人びとの魅力にどっぷりはまっています。

2月19日～3月8日、全国4大学から集まった5人の学生・スタッフと共に、南インドのパンガロール・カニヤクマリを訪れました。貧困等の

ゆえに家族と暮らせない子ども達が共同生活をする施設（セントポニファス・アンバム）に滞在し、インドの文化や社会に触れ、カーストや性別による差別や暴力の現状を学び、近隣のYMCAやマザーテレサランチ等を訪問しました。

インドで最も大きな経験は、子ども達との出会いです。彼等は素手とはだして私を歓迎し、私に向き合ってくれました。日本の子ども達のように何でも持っているわけではないけれど、私は彼等の、毎日を生懸命に生きる姿から日常を大切に生きることを教えられました。子ども達のことをもっと知りたくて、覚えたてのタミル語や身振り手振りやダンスで子ども達と語り合おうとする中で、言葉が分からなくても、互いを理解し合うことはできるのだと気付かされました。

学Yのインドスタディキャンプでは、毎日キャンパー達と聖書を読み、一日の学びと体験を振り返りながら、一人ひとりが心に抱えている思いを出し合うことができました。観光旅行や一人旅とは違い、共に笑ったり怒ったりしながら、互いの声を聞き合う時間があつたからこそ、私達はかけがえのない何か特別なつながりを感じ合える仲間になりました。

私は、東北大学YMCA溪水寮で13人の寮生と共に、自治を基本とした共同生活をしていますが、日々の生活や寮運営の中で、お互いを理解し合うことが難しいと感じることがあります。けれど今は「言葉を尽くして理解したい気持ち」を原動力にして、一人ひとりと向き合っていきたいと思っています。このインドスタディキャンプでの出会いと経験を多くの人と分かち合い、寮運営や学生YMCAの活動に生かしていきたいと思っています。

白河 榮 (東北大学YMCA溪水寮)

●2014年9月に神戸YMCAファミリーウエルネスセンター開設

神戸YMCAは1886年に神戸の地で生まれ、2014年で128年目を迎えました。その長い歩みの中で、2014年9月にまた新たな一歩を歩み出します。神戸市中央区脇浜町に「神戸YMCAファミリーウエルネスセンター」を開設することとなりました。そこには、変わりゆく社会、地域、家族の暮らしを見つめ続けてきた、神戸YMCAの願いがあります。

かつて日本人は農耕社会に適した大家族を形成し、代々田畑を守り生活してきました。しかし、高度経済成長と共に会社勤め中心の生活へと移行し、核家族での生活を基本とするようになりました。さらに、現代では一人暮らしの高齢者、社会に進出し働く女性達、遠隔地や海外で働く父親や学ぼう子ども達があります。そして海外からも多くの人びとが学びの場、あるいは動きの場として日本を訪れています。その結果、今、日本の中には細分化された家族のあり方が広がりつつあります。こうした時代だからこそ、赤ちゃんも、子ども達も、お父さんも、お母さんも、おじいちゃんも、おばあちゃんも、すべての人が集い交わり、多世代・多文化を育て、共に生きる心と体を養う場が求められています。

今、神戸YMCAが掲げる「ファミリーウエルネス」という言葉には、家族一人ひとりの成長とコミュニティの仲間が、お互いの愛情により支え合い、情緒的な安定を与え合い、さらには新しい人間関係を築くことを進めていきたい、そんな思いが込められています。神戸YMCAの使命は、すべての「いのち」を輝かせること。「The YMCA Family」の名のもとに、ここへ集うことで一人ひとりの喜びが家族の喜びとなり、家族の喜びが地域の喜びに、そして世界の喜びへとつながるよう、あふれる喜びを共に作り出していきます。

神戸YMCA 小寺 隆志



神戸YMCAファミリーウエルネスセンターの外観完成イメージ

●発達障がいのある子どもの成長を考える勉強会

—横浜YMCA



「子ども達が必要な力を身に付けるためには「第3の場所」が必要」と語る特別支援教育士

2月22日、藤沢YMCAで「発達障がいのある子どもの成長を考える勉強会」を行い、30人を超える方の参加がありました。現在、「発達障がい」についての理解も少しずつ広がり、発達障がいのある子ども達を対象とするさまざまな施設やプログラムも増えてきていますが、そのような時期だからこそ、YMCAの取り組みを地域の方達に知っていただく機会を持ちたいと考え、今回の勉強会を行いました。

勉強会では、体力・学力・コミュニケーションスキル・ソーシャルスキル等、子ども達に備わってほしい力を、子ども達はどのようにして身に付けていくのか、どのような支援が大切なのかを具体的な例を交えながらお話ししました。子ども達がさまざまなスキルを身に付けるためには、家庭や学校だけでなく、「第3の場所」の存在が必要であり、両親でもなく、先生でもない、大人（支援者）の存在は彼等の成長にとって欠かすことができない要素です。横浜YMCAの発達障がい児・者のための「トライアングルクラス」は、幼少期から成人期に至るまでの長い期間にわたる継続的な支援をする所であり、「第3の場所」であることをお伝えできたのではないかと考えています。

終了後のアンケートには「家庭、学校以外でサポートをしていただける場所があるのを知ることができて良かった」「YMCAの支援の特色がよく分かった」「長い間見続けてくれる、そばに居続けてくれる人がいることが大切」という言葉が良かった」というような感想をいただきました。

藤沢YMCAでクラスがスタートしてから17年がたちますが、まだまだトライアングルクラスの活動をご存じではない方も多くいらっしゃることも分かりました。今後も、このような勉強会を継続して行い、地域の方達と一緒に大切な子ども達の成長に寄り添っていきたくと考えています。

横浜YMCA 田沼 美穂 (特別支援教育士)

●YMCA地球市民として歩み始めます!

「5秒に1人、5歳未満の子どもが命を落としている。自分には何が出来るだろうか」「先入観で判断する危うさを実感」

「知識がないことへの不安がいろいろな場所に赴いたことで、もっと知りたい!の原動力に変わっていった」

「女性の生き方について大学の仲間と話し合う場を持った。同じ世代、似たような環境だからこそ共感できること、また一人ひとりの考えに触れて視野が広がった」

3月23日に行われたYMCA地球市民育成プロジェクト認証式は、このように2013年度研修生によるアクションプラン（行動計画）の報告からスタートしました。続いて、上智大学総合人間科学部の田中治彦教授より、5年目を迎える本プロジェクトの立ち上げに込めた思いと、これからの期待についてお話しいただきました。YMCA地球市民育成プロジェクトの強みは、グループワークの手法やアジアや世界と交流ができる点等、YMCAがこれまで培ってきた青少年育成の要素を凝縮した点であることを挙げられました。これらの強みをもとに、地域や大学にある基盤をどんどん活用して、自分の居場所や足元から少しずつ変化を起こす主体になってほしい、さらにはビジネスの世界で求められるような限定的な「グローバル人材」の枠を広げ、「地域と世界の架け橋になってほしい」との期待が語られました。

他にも、認証状授与を宗雪雅幸ユースファンド代表幹事より、激励のメッセージを北城格太郎ユースファンド副代表幹事、中川善博日本YMCA同盟会長それぞれからいただきました。どうぞ地球市民の第一歩を踏み出した第4期生の活躍をご期待ください。

日本YMCA同盟 佐々木 美都

2014年度YMCA地球市民育成プロジェクト 研修生募集がスタート 6月9日(月)申込締切

本プロジェクトに関心がある日本に在住の18～30歳までのユースを対象としています(留学生も可)。専門知識・YMCA経験を問いません。

※YMCAユースファンドでは世話人(個人・グループ)を引き続き募集しています。



在日本韓国YMCA(東京・水道橋)にて第4期認証生の34人が出席